

グリーントピックス

北海道立林業試験場

No.7

ヤチダモに新害虫発生



5月中旬の幼虫：体の中ほどがやや太めなのが特徴



枝に網を張って食害する幼虫

芦別市上芦別で、ヤチダモ人工林の葉が食害されました。昨年9月に発見されたもので、枝ガクモの巣状の網でおおわれていたことからホシシャクによる被害とわかりました。このシャクガはイボタノキやネズミモチなどの害虫として知られていますが、ヤチダモ林に発生したのは初めての記録です。この人工林ではハシドイも食害していました。いずれもモクセイ科の植物です。

成虫は羽を広げると4cmぐらいで、白地に黒い点があることからホシシャクと呼ばれます。7月中旬に成虫が羽化し、昼間林内を飛びます。卵からふ化した幼虫は10月下旬まで枝に網をかけて葉を摂食し、その後林床の落葉層で越冬します。翌春5月中旬、幹を登っていき、秋と同じように枝に網を張って葉を食べます。蛹になるのは6月下旬で、蛹期間は2週間ぐらいです。

昨秋この人工林では、約20%の木が90%以上の食害を受けていました。そこで6月初めに、くん煙剤で駆除したところ、88%のホシシャクが死にました。



ヒメスロイド系のくん煙剤によりハシドイから巣れ下がる幼虫